建 設 協 議 会 協 議 事 項

日時　令和５年１月 20 日(金)
　　午前 10 時
場所　第四委員会室

○　所管事項の報告について

１　八戸圏域地域公共交通計画の策定について

２　八戸市緑の基本計画の見直しについて

建 設 協 議 会 資 料
令和５年１月２０日
都市整備部都市政策課

八戸圏域地域公共交通計画の策定について

１　計画策定の背景

八戸圏域では、圏域の公共交通のマスタープランである「八戸圏域地域公共交通網形成計画（計画期間：令和元年度から令和５年度）」において、公共交通の方針や具体的な施策の方向性などを位置づけ、事業の推進をおこなってきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、住民の移動が変化したことで公共交通にも大きく影響を与えている。

さらには、令和２年度の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正により、公共交通計画への名称変更や、計画に係る各種制度も改正になったことから計画の見直しが必要となり、また、市の公共交通のマスタープランである「八戸市地域公共交通網形成計画（計画期間：平成 28 年度から令和４年度）」が終了する。

このため、圏域計画を改定する必要性と、市の計画を改定する必要性があるため、圏域の計画を 1 年前倒しすると共に、圏域の計画に市の計画を 1 本化する、新たな「八戸圏域地域公共交通計画」を策定するもの。

２　計画の目的と位置づけ

本計画は、市民等の移動手段として持続可能な公共交通を確保・維持に向けて、八戸圏域における地域公共交通のあるべき姿やその実現に向けて取り組むべき方向性などを示すことを目的とする。

また、第２期八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン及び現在、県が策定している青森県地域公共交通計画を上位計画とし、ビジョンに示す将来像の実現を目指すとともに、県計画に示す広域的な公共交通ネットワークに係る考え等に基づき、推進するものとする。

３　策定主体等について

・策定主体：八戸圏域地域公共交通活性化協議会（法定協議会）
・計画区域：八戸圏域８市町村の全域
・計画期間：令和５年度～令和 10 年度（６年間）

４　基本理念（案）

自家用車に過度に依存しなくても安心して生活を営むことができ、公共交通を軸とした活発な交流により多様な個性・特性が輝き、圏域全体が一体的に発展するとともに、圏域における定住促進に資する「公共交通指向型の圏域づくり」を目指す。

５　基本方針（案）

方針１：圏域における定住促進に資する公共交通ネットワークの形成
方針２：圏域市町村で暮らし続ける上でのセーフティネットの構築
方針３：生活の基盤となる公共交通の持続性の向上
方針４：移動手段として選ばれ・使われる公共交通体系の構築
方針５：お出かけしたくなるまちの実現に資する公共交通

６　基本目標（案）

目標１：公共交通沿線地域の定住促進に資する、市町村間および地域間を結ぶ公共交通ネットワークの利便性・持続性を向上する
目標２：公共交通間での適切な役割分担を図り、需要に応じたきめ細かな移動に対応し、外出しやすい居住環境を形成する

目標３：適切な見直しや多様な主体間の相互の連携を行い、効率的かつ効果的な公共交通サービスを提供し持続性を向上する
目標４：利用環境の改善などによる、利用しやすさやわかりやすさの向上を図るとともに、新たな利用者を獲得する

７　具体的な施策（案）の概要

(1) 圏域全体において取り組む施策

①公共交通の品質確保プロジェクト
施策１：広域的な公共交通の適切な維持（継続）
施策２：運賃政策の維持（継続）
※施策３：各種データの利活用による分析・検証（新規）

②公共交通間の連携促進プロジェクト
施策４：公共交通間の接続性の改善（継続）
※施策５：待合環境の利便性向上（拡充）

③公共交通の持続性向上プロジェクト
施策６：事業者間連携体制の維持・強化（継続）
施策７：公共交通の確保・維持に向けた支援体制の構築（継続）
※施策８：他分野との連携体制の維持・強化（拡充）

④公共交通のわかりやすさ向上プロジェクト
※施策９：公共交通利用の啓発活動の展開（拡充）
※施策 10：情報発信機能の強化・周知（拡充）
※施策 11：利用しやすい支払方法・システムの導入検討（新規）

(2) 八戸市において取り組む施策

①「便利に使える」公共交通プロジェクト
施策１：幹線軸・準幹線軸の品質確保（継続）
施策２：交通ターミナルの乗継機能の強化（継続）
施策３：都市計画と連携・協働したまちづくり（継続）

②「みんなで育てる」公共交通プロジェクト
施策４：地域協働による移動手段の確保　（継続）
※施策５：小規模需要対応交通の導入検討（拡充）

③「快適に乗れる」環境改善プロジェクト
※施策６：運賃体系・支払い方法等に係る見直し検討（拡充）
※施策７：福祉・観光等との連携した施策展開（拡充）

④「迷わず乗れる」情報提供プロジェクト
施策８：既存取組の情報発信（継続）

８　策定スケジュール

・５月 10 日　第１回圏域ワーキンググループ会議（１月まで９回開催）
計画素案の検討
・12 月 21 日　第１回八戸圏域公共交通活性化協議会
計画素案の協議
・１月 20 日　パブリックコメント実施（～2 月 19 日）

・３月 28 日　第２回八戸圏域公共交通活性化協議会
計画案の協議、決定、公表

建 設 協 議 会 資 料
令 和 5 年 1 月 2 0 日
都 市 整 備 部　公 園 緑 地 課

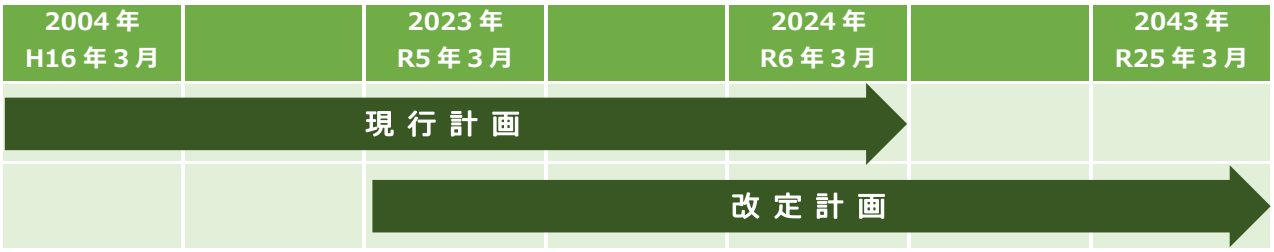
八戸市緑の基本計画の見直しについて

1．緑の基本計画とは

・都市緑地法に基づき市町村が定める「緑の適正な保全と緑化の推進に関する施策を実施するための総合的な計画」である。

2．改定の理由

・現行計画は平成 15 年度に策定した計画期間 20 年（令和 5 年度まで）の計画であるが、都市緑地法の改正により都市公園の維持管理方針等について緑の基本計画に新たに盛り込むことが求められたことや、人口減少・少子高齢化、SDGs・環境問題への関心の高まり等、社会情勢が変化したことから、改定時期を前倒しして令和３年度と４年度の２か年で改定作業を行っている。



3．緑の現況調査及び市民ニーズの把握

・緑に関する都市特性を把握するための現況調査及び市民ニーズを把握するためのアンケート調査を令和３年度に実施し、これらの調査結果を分析したところ、現行計画策定時と比べて緑の満足度は高まっている傾向にあったが、課題として、緑の量よりも質の向上、公園や街路樹等の整備や維持管理に係る財源の確保等が明らかになった。

・また、市の未来を担う若者や女性にとって魅力あるまちづくりを推進するために立ち上げられた「八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議」より、市が実施した若者意識調査の結果を踏まえ、「市民全員が気軽にアクセスでき、賑わっている公園があれば、子ども一人で遊びに行かせられ、子育てが一気に変わる」との提言があった。

4．改定のポイント

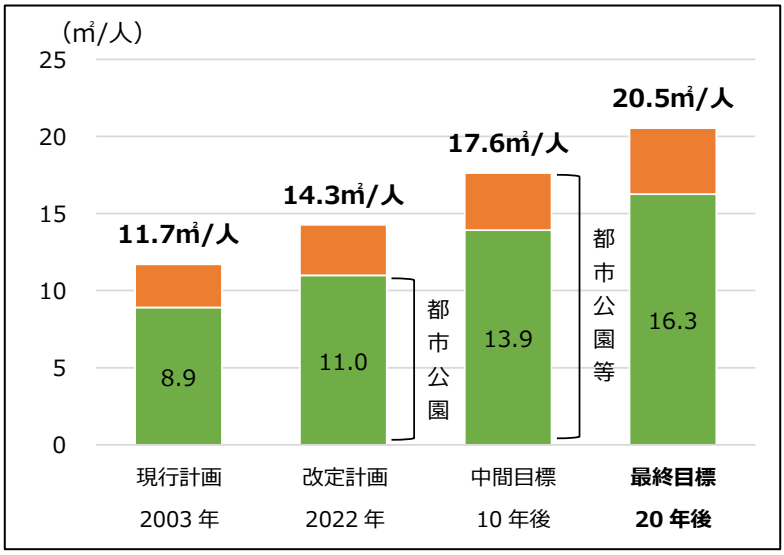
①新規整備から再整備・管理・運営への方針転換

・現行計画策定時と比べて、公園整備は一定程度の進捗が図られ、公園数の増加に伴い管理負担が増加していることや、SDGs や人口減少・少子高齢化への対応が求められていることから、「ストックの利活用・維持修繕の適正化」に方針転換を行った。

②緑の目標水準に管理目標を追加

・都市公園等面積という「量」の整備目標に加え、アンケート調査における満足度という「質」の管理目標を新たに設定した。

・「量」の整備目標：市民 1 人当たりの都市公園等面積



○都市公園とは
・都市公園法で設置した公園緑地
○都市公園等とは
・上記都市公園に、農村公園、港湾緑地等の公共団体が設置した公共施設緑地を含む

・「質」の管理目標：アンケート調査における市内の緑、身近な緑への満足度

調査項目＼調査時期	現行計画 平成 15(2003)年	改定計画 令和 3(2021)年	**最終目標** **20 年後**
市内の緑への満足度	15.6%	20.7%	**25%以上**
身近な緑への満足度	16.2%	16.8%	**20%以上**

③緑化重点地区に「西白山台地区」を追加

・先導的に緑化を推進し計画の早期実現を目指すモデル地区となる緑化重点地区として、現行計画の「八戸駅周辺地区」「中心市街地地区」に加え、人口が増加しているものの未整備公園が残っており公園ニーズが高まっている「西白山台地区」を新たに設定した。

④計画対象区域に「南郷地域」を追加

・平成 17 年に旧南郷村が合併したことから「南郷地域」を追加した。

５．主な取組

○管理に関する取組

・公園施設長寿命化計画の推進、公園樹木管理計画策定の検討

・ストック再編や機能再編（役割分担）の考え方の導入による身近な公園の充実

・開発による小規模公園の設置基準の緩和

・（仮称）緑サポーター制度の創設等の検討（民間活力の活用）

○整備に関する取組

・長根公園における八戸市体育館の建て替え

・（仮称）八戸駅西中央公園、とりの木沢公園（西白山台地区）における
　Park-PFI 等の民間活力を活用した公園整備の検討

・八戸公園におけるインクルーシブ遊具の設置

６．今後の予定

・パブリックコメント手続・・・・１月２０日～２月１９日（３１日間）

・緑の審議会による最終決定・・・３月８日

・計画の公表及び配布・・・・・・３月下旬